

第23回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 中学生部門

●審査員 A

中学生になるということはつまり、少なくとも指のテクニックという点に関しては、世界中のレパートリーのほとんど全ての曲を弾けるようになるということです。しかし何よりも重要なのは、身体的な技術ではなく感情であることを忘れないでください。例えば、哀しみや喜びといった感情がもっと聴こえてくれば、と思うことが度々ありました。でも、自然な時間の使い方や音質にはとても良かったと思います。お見事です、この調子で頑張ってください！

●審査員 B

コロナ禍で色々大変な中、ホール審査で素晴らしい演奏を聴けた事が、とても嬉しかったです。参加者1人1人のショパンへの想いが伝わる演奏で至福の2日間でした。有難うございました。そんな中、一つ気になる点があり、それは練習曲の完成度がもう少し上がると良いと思いました。楽曲(課題曲 B)は良かったのに勿体ないと思う事がありました。1曲目に弾くので、緊張しているとは思いますが、会場の音響やピアノの癖を瞬時に判断して対応出来るとともに、緊張感を上手くコントロール出来ると良いです。多く舞台を経験することで身につけてほしいと思います。

●審査員 C

皆様よく練習されて、よく弾き込まれ、速いテンポで堂々と弾かれていました。速さにとられる余り、細かいところが、いい加減になってしまったり、弾き飛ばす方が見られました。より細部まで響きをていねいに弾けるとよいと思いました。

●審査員 D

中学生部門を審査させて頂き、大変勉強になりました。さすがにアジア大会、素晴らしい演奏にたくさん出会えました。テクニックも充実して、自由に指をコントロールし、楽譜から読み取った微妙な音色の違いが表現できている演奏も多くありました。心からその曲が好きなことが伝わってくる演奏には細部の表現の試行や音色に対する工夫や音を作ろうという意志も感じ取れました。

反面、もちろん中学生、学びの途中だとは思いますが、ペダルの差、力みのある演奏も聴こえてきました。ショパンの和音の変化や、どこか常に感じられるポーランドを想うメロディーなど歴史と共に感じ入り、多くの音が自分の指で重ね合わすことの素晴らしいピアノの特徴を生かし楽しみ、作り出す音に自ら感動して演奏を高めていかれたらと思います。

本来なら多くの同世代の演奏を聴き刺激と学びがあるのです。コロナの終息を願い、本物の音の響きを多く体験してほしいです。

●審査員 E

ホールでのアジア大会が無事開催できました事を嬉しく思います。エチュードと曲との仕上げのレベルに差がある参加者もいて採点の仕方も難しかったです。レベルの高い演奏も多くありました。動画審査との違いを大きく感じました。

●審査員 F

- ・テクニックのみにスポットを当てず、音楽的な内容を十分に捉えて、アーティスティックな演奏を心掛けてほしい。
- ・音符の固まりとしてではなく自分の言葉として語りかけてくる詩的な表情が必要です。
- ・曲の全体を俯瞰して構成力を発揮してほしい。歌心、ハーモニーの変化、場面転換に伴う呼吸感のある運び、ペダルの使い方、詰めに耳を使って！
- ・**f** (フォルテ) の音質、また、**p** (ピアノ)、**pp** (ピアノシモ) のタッチの幅を増やし、ショパンらしい柔らかでカンタービレなラインを美しい音で奏でて下さい。